

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890100096
法人名	株式会社 スローライフ
事業所名	ぐるうぷほうむ54番地
所在地	愛媛県松山市水産町54番地
自己評価作成日	H25年8月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成25年8月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「利用者さんと一緒に作る暮らし」を合言葉に、料理や、おかしづくり、共有空間のアレンジなど、みんなで楽しみながら暮らしに花を添えています。地域に住まい、幼稚園や小学校に子供らが通う職員も多く、幼稚園や小学校、中学校そして、子供たちを含め、地域との交流という面では、有利な条件がそろっています。この強みを生かして、さらに、地域との関係を深めていきたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●事業所では、さらに地域との日常的なおつきあいを深めたいという思いから、近隣の法人系列事業所と合同で、7月から毎月の第二土曜日に「青空市」を始めておられる。開催に当たっては、区長の方の配慮で、地区の6ヶ所の掲示板にポスターを掲示された。事業所の菜園で収穫した野菜や余剰品等を利用者も売り子となって販売されたところ、近所の方からは「今度はいつするの」との声もあったようだ。施設長は、この機会を地域への発信のきっかけとして、地域に開かれた事業所作りや、認知症・事業所へのさらなる理解につなげていきたいと考えておられる。事業所前の神社の夏祭り際には、事業所の駐車場を利用者と一緒にバザー等を開き、毎年盛況のようだ。又、利用者は、近隣の小学校の運動会や金管バンドの発表会に招待されたり、地区の「福祉の集い」にも参加されている。毎年、継続して中学生の職場体験学習を受け入れておられ、ミニ運動会や折り紙、おやつ作り等を行ないながら、楽しい時間を過ごされている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 ぐるうぷほうむ54番地2階

(ユニット名)

記入者(管理者)

氏名

松本 美喜代

評価完了日

H25 年 8 月 14 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>(自己評価) 理念に基づくケアが出来るように、職員間で話し合い、確認・共有して日々の利用者との関わりの中で実践につなげるように努めている。</p> <p>(外部評価) 開設以来、理念として、「人生の継続性を大切に自分が自分として生きていく」「自分がされたり言われていやなことはしないと言わない(尊厳の保持)」「誰の世話にもならず自分で生活をしていると思えるような環境を整える(自立支援)」を掲げておられ、玄関や廊下に、代表者自筆の理念を掲示されている。カンファレンスの際は、理念に基づいて話し合えるよう心がけ、実践につなげている。</p>	
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>(自己評価) 地域の行事や学校の行事等に積極的に参加している。近所への散歩や買い物などに出かけ、近隣の方と挨拶を交わし交流を持てるように心掛けている。集会所での地域の集会にも利用者と一緒に参加し、地域の方と交流を持つようにしている。</p> <p>(外部評価) 事業所では、さらに地域との日常的なおつきあいを深めたいという思いから、近隣の法人系列事業所と合同で、7月から毎月の第二土曜日に「青空市」を始めておられる。開催に当たっては、区長の方の配慮で、地区の6ヶ所の掲示板にポスターを掲示された。事業所の菜園で収穫した野菜や余剰品等を利用者も売り子となって販売されたところ、近所の方からは「今度はいつするの」との声もあったようだ。施設長は、この機会を地域への発信のきっかけとして、地域に開かれた事業所作りや、認知症・事業所へのさらなる理解につなげていきたいと考えておられる。事業所前の神社の夏祭り際には、事業所の駐車場で利用者と一緒にバザー等を開き、毎年盛況のようだ。又、利用者は、近隣の小学校の運動会や金管バンドの発表会に招待されたり、地区の「福祉の集い」にも参加されている。毎年、継続して中学生の職場体験学習を受け入れておられ、ミニ運動会や折り紙、おやつ作り等を行ないながら、楽しい時間を過ごされている。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>(自己評価) 地域の方に、認知症の方の暮らしぶりを見て貰ったり、地域の中学校の職場体験や実習生の受け入れも積極的に行っている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 事業所の取組内容や行事の報告などを行い、地域の方やご家族の意見を頂き、意見を活かせるように努めている。	
			(外部評価) 会議はこれまで、2ヶ月ごとに近隣の法人系列事業所と合同で開催されていたが、9月からは、それぞれの事業所単独で行なうことを計画されている。昨年9月から、ご家族全員に会議の案内を出すよう取組み、ご家族が多数参加して下さるようになったようだ。利用者も出席して発言の機会を持ってもらうよう取組まれている。出席された民生委員や区長は、地域行事等を教えてくださる。施設長は、今後さらに、積極的に参加して交流を深めたいと話しておられた。又、事業所の行事や防火訓練と合わせて会議を行ない、事業所のことをさらに知ってもらいたいと考えておられた。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 介護認定の訪問調査の際に、担当者へ出来るだけ詳しく利用者の日々の暮らしぶりを伝え、連携を深めている。	
			(外部評価) 地域の「認知症サポーター養成講座」開催時には、法人代表者と施設長が参加して協力された。運営推進会議時、事業所からの報告の後、市の担当者からは、「ご家族がたくさん参加されており、関心を持たれている様子がうかがえます」、市社協の方からは、「利用者が一番考えた支援を行えているのを感じました」、地域包括支援センターの方からは、「地域との良い連携が取れている様子がうかがえます」等の意見をいただいている。又、感染症や防災等についてのアドバイスもいただいている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 利用者が外出しそうな様子の時には、止めるのではなく一緒について行き、安全面に配慮しながら、自由な暮らしが出来るように努めている。 身体拘束について、ミーティング等で話し合いを行っている。	
			(外部評価) 玄関は、昼間は施錠せず、自由に出入りできるようになっている。気ままに出て行かれる方には、利用者個々にタイミングを見計らって声かけしたり、一緒について行ったり、又、事業所内で、利用者に落ち着きがみられないような場合には、気分転換にさりげなく散歩に誘う等、工夫して支援されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 勉強会やミーティング等で、虐待について学んだり、不適切なケアがされていないか、話し合ったり確認したりして、虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 勉強する機会を持ち、理解を深めるようにしているが今のところ、対応が必要と思われる利用者はいない。対応が必要と思われる利用者がある場合は、随時説明やアドバイスを行い利用者の支援に繋がるよう支援していきたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分な説明をさせてもらい契約をさせていただいている。また、改定の場合には事前に説明の文章を発送しそのうえでご家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご家族には電話や来訪時に近況をお伝えし、話しをする中で何でも言って貰えるような雰囲気作りに努めている。出された意見や要望は反映できるように努めている。 (外部評価) 毎月、手紙で利用者の日常の暮らしぶり等をご家族に報告し、ご家族が来訪された折には、「何か困ったことはないか」等、聞き取り、意見や要望をうかがうように努めておられる。運営推進会議時、ご家族から、「転倒には十分気を付けてほしい」との意見があり、「利用者の行動や心理を十分に把握し、転倒事故が起こらないように職員一丸となって取り組んでいく」ことを伝えられた。イチゴ狩りやお花見、ぶどう狩り等、季節ごとの外出行事の際には、ご家族をお誘いして親睦を図っておられる。6月までは、毎月、ユニットごとに写真を掲載した広報紙をご家族にお届けしていたが、今後は、近隣の系列事業所と合同の季刊誌を発行する予定となっている。ご家族の中には、丹精されたお米やお味噌、野菜等を差し入れしてくださる方も多いようだ。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>(自己評価) ミーティングを月に1回行い、意見の交換をしたり、要望を聞いたりしている。また、日頃からコミュニケーションをとるように心掛け、気にかかることなど、話しやすい雰囲気を作っている。</p> <p>(外部評価) 今回の自己評価は、毎日、数項目ごと職員が担当して取り組み、1ヶ月ほどかけて作成された。施設長は、「日々のケアの振り返りや確認ができ、職員の気付きや自己研鑽につながったようだ」「職員の日頃の頑張りも見えた」と話しておられた。毎月、ユニットごとのミーティングで意見交換がなされ、ユニットリーダーを中心としたチームケアにつなげておられる。ミーティングの前に勉強会を開き、ロールプレイ等を通じて「認知症ケア」への学びを深めておられる。法人内研修も毎月行われており、「接遇」等を含めた研修を実施されている。施設長は、「職員の意見を尊重する」姿勢を持っておられ、又、職員のキャリアに応じて外部研修の参加を促す等、職員が向上心を持って働けるよう、努めておられる。</p>	
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>(自己評価) 運営者も現場に来ており、利用者や職員に声かけをし、職員の業務や悩みを把握するように努めている。職員の資格取得に向けた支援を行っている。</p>	
13		<p>○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>(自己評価) 研修に行く機会を設けている。研修に参加した職員が、ミーティング等で内容を報告し、情報を共有できるようにしている。また、全職員に対して、勉強会を行い指導を行っている。</p>	
14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>(自己評価) 交流会に参加して意見交換をしたり、外部研修の時に交流や勉強を行っている。</p>	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価) ご本人の求めていることや不安を理解出来るように努めている。思いや要望に耳を傾けながら、本人の安心が得られるように関係作りに努めている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族の不安なことや困っていることなど、しっかりと話しを聞き、相談に乗ることで少しでも気持ちが楽になったり落ち着いたり出来るように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご家族の思いや要望・状況を確認し、出来る限りのサービスが行えるように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人の思いや暮らしの意向などを理解し、思いを共感しながら、共に支え合える関係作りに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) まめにご家族に連絡し、日頃の様子や健康状態などをお伝えしたり、面会時にご家族の思いを聞いたりしながら、本人を共に支えていく関係が築けるように努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 本人の思いを大切にしながら、馴染みのお店に買い物に出かけたり、知人や友人が訪ねて来やすいように配慮したりしている。 (外部評価) ご自宅が心配で帰りたい利用者には、数時間でもご自宅で過ごしていただけるようお連れしたり、時には、そのまま外泊することもある。年賀状は毎年、全員の利用者がご家族や友人宛てに投函できるよう、支援されている。お酒を嗜まれたり、喫煙される方もあり、習慣が継続できるよう配慮されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士が楽しく過ごす時間や気の合う者同士で過ごせる環境作りをする等、利用者同士の関係がうまくいくように職員が調整役として支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用が終了しても、必要に応じて支援や相談に応じたりするように努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の関わりの中で声をかけたり、表情や言葉などから意向を把握できるように努めている。 (外部評価) 職員は、利用者の日頃の言葉を拾い集めて、思いや意向の把握に努めておられる。「介護記録」は、利用者が「何を話したか」という視点で記録し、職員間で情報を共有されている。フェイスシートには、生活歴を始め、「認知症になる前(長年の習慣)」「現在の好み・好まないこと」等の情報を記入し、1年ごとに見直されて、介護計画につなげておられる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご本人のバックグラウンドを知るため、ご家族や友人等から話を聞き、これまでの暮らしや生活環境等を把握し、全体像を知るよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりの生活のリズムを理解し、行動の様子などから、出来ることや分かる力の現状の把握が出来るように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) ご本人に日頃の関わりの中で希望をお聞きしたり、面会時や電話での近況報告の際にご家族の思いや要望をお聞きしたりして、反映させるようにしている。毎月のミーティングや日々の送りの際にアセスメントを含めた話し合いを行っている。</p> <p>(外部評価) 事業所では、4月に「記録の書き方」を見直された。従来の「困ったシート」の「困ったこと」の項目には、利用者が困ったことではなく、職員の都合で職員が困ったことを記録しがちであった。そこで、より利用者の立場に立ったシートになるよう、項目名を「気になっていること」に、さらにシート名も「気付きシート」に変更したところ、利用者がよりよく暮らすための課題が明白になったようだ。「気付きシート」をもとに、毎月のモニタリングを行い、利用者の現状に即した介護計画の作成に努めておられる。</p>	<p>利用者一人ひとりの日々の「介護記録」には、介護計画の目標を添付し、介護計画についての記入欄も設けられているが、職員によっては、活用に至っていないようだ。さらに、介護計画に沿った支援が実践できるような工夫を重ねてほしい。</p>
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 個別に食事や排泄の状況を記入したり、日常の様子や会話したこと・接する中で気付いたことなどを介護記録に記入し、職員間で情報が共有できるように努めている。また、この記録をもとに介護計画の見直しや評価を行うようにしている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) ご本人やご家族の状況や要望に応じて、柔軟な対応が出来るよう努めている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 地域の行事等には積極的に参加し、地域との交流を図り、安全に暮らしを楽しむことが出来るように支援している。運営推進会議には地域の方や民生委員、地域包括の方に参加して頂き、意見や情報の交換が出来る場になっている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) ご本人やご家族が希望するかかりつけ医となっている。受診や通院はご家族の希望で職員が代行するようにしている。	
			(外部評価) 1月より訪問看護事業所から週に一度、及び、随時看護師が来られて、医療連携に取り組まれている。利用者個々のかかりつけ医や専門医への通院は、ご家族や職員が同行して支援されている。訪問歯科を利用される方もある。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 日々の申し送りの情報や体調の変化に気をつけ、気になることや体調の変化に気付いた時は、訪看に連絡し適切な医療が受けられるように支援している。	
			(外部評価) 入院時には職員が同行し、医師と話す機会を持ち、状況や状態の説明をしたり、情報提供をしたりしている。こまめにお見舞いに行き、様子を見たり、病院関係者やご家族から回復状態などの情報交換しながら、速やかな退院支援に結び付けている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) ご本人やご家族の意向を踏まえ尊重しながら、医師や職員が連携をとり安心して最期を迎えられるように取り組んでいる。	
			(外部評価) 事業所で最期を過ごしたいと希望される利用者やご家族が多いようだ。ご本人やご家族の意向は、入院時等、状態が変化したことをきっかけにお聞きして、終末期に向けた方針について話し合われている。事業所では、これまでも年に数名の利用者の看取りを支援されており、現在は、1名の利用者が終末期を過ごされている。経管栄養ではあるが、口からもお好きな物を食べていただけるよう支援されている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ご本人やご家族の意向を踏まえ尊重しながら、医師や職員が連携をとり安心して最期を迎えられるように取り組んでいる。	
			(外部評価) 事業所で最期を過ごしたいと希望される利用者やご家族が多いようだ。ご本人やご家族の意向は、入院時等、状態が変化したことをきっかけにお聞きして、終末期に向けた方針について話し合われている。事業所では、これまでも年に数名の利用者の看取りを支援されており、現在は、1名の利用者が終末期を過ごされている。経管栄養ではあるが、口からもお好きな物を食べていただけるよう支援されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時や事故発生時に慌てずに適切な対応が出来るように、想定をしながら勉強会やミーティングで話し合いを繰り返し行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 地域の避難訓練に参加したり、消防署の協力の下、事業所で利用者さんと一緒に避難訓練を行ったりしている。緊急時の通報連絡のマニュアルなども定期的に確認するようにしている。 (外部評価) 年2回、消防署の指導のもとで避難訓練を実施されている。消防署員から「全員の屋外への避難が困難な場合、一時避難する場所をあらかじめ想定しておく」「トラッキング火災を想定し、日頃から電化製品のチェックやコンセントの掃除をする」「夜間を想定した訓練にも取り組んでほしい」等のアドバイスをいただいた。施設長は、今後、「地域の方にも参加いただき避難訓練を実施したい」「地区の災害時の連絡網の確認もしていきたい」と話しておられた。	施設長は、長崎のグループホーム火災を教訓に「日頃から防災意識をしっかり持ち、利用者の命を守りたい」と考えておられる。今後もさらに、万が一の災害に備えて、地域と連携できる体制作りに取り組み、又、風水害や地震等、いろいろな想定での避難訓練を重ねていかれてほしい。法人は、全国災害支援ネットワークに加入されているが、いざという時に、すぐさま対応できるよう、水や食料品等の備蓄についても整備していかれてはどうだろうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 日々の介護の中で職員の言葉や行動で、利用者を無視した対応をしたり傷つけたりしていないか確認しながら、気をつけて対応するように心掛けている。ご本人の気持ちを大切にしながら、さりげないケアや言葉かけをするように努めている。 (外部評価) 職員は、利用者の言葉に耳を傾けて、「『そうね』と受け入れ同調するような対応」を心がけておられ、又、「利用者の身になった」言葉かけに努めておられる。自信や誇りを持ってもらえるよう、運営推進会議時に利用者代表であいさつをしてもらったり、事業所の菜園のお世話をしてもらおう等、出番や役割を發揮できるような場面作りにも取り組まれている。利用者同士の相性等を考慮して、テーブルの座席にも配慮されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 一人ひとりの気持ちを大切に、ご自分で決定出来るような場面を作っている。意思表示が困難な方には、選びやすい場面作りをしながら、表情や反応から読み取るように心掛けている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりの体調やペースに配慮しながら、本人の気持ちを尊重して過ごせるように支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) その人らしさが保てるように、一人ひとりに応じた身だしなみやおしゃれの支援を行っている。自己決定がしにくい方には職員と一緒に考えたり、声かけをしたりしてお手伝いをして	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一緒に買い物に行って、食材を見ながらメニューを考えたり、出来る限り、調理や片付けなどにも参加して頂けるようにしている。	
			(外部評価) ユニットごとに、利用者に献立の希望もお聞きしながら、食事作りをされている。利用者とともに買出しに行かれ、食材の選別やカート押し、又、料理の下ごしらえや後片付け等、利用者個々の力を活かしながら、食事を楽しむことができるよう取り組んでおられる。事業所の菜園で育てた野菜や、ご家族からいただいた食材も食卓を彩っている。調査訪問当日の食卓には、ご家族からいただいたハマチのお刺身や、先日のぶどう狩り時のぶどうが上っていた。職員は、利用者とともにテーブルを囲み、同じ物を食べておられ、お話を夢中になり箸が進まない利用者には、さりげなく「卵、おいしいですよ」と声かけしながら、サポートされていた。又、食欲のない方には、「食べないと元気が出ないですよ」と食材や料理の内容を伝えながら、箸をつけてみられるようにすすめておられた。又、ゆっくり時間をかければ最後まで食べられる方には、見守り支援をされていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの体調や摂取量を把握するように努めている。水分摂取量や栄養バランスにも気をつけ、個々に応じたものを提供するよう心掛けている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを行っている。自分で出来る方は声かけ見守りを行い、自分で出来ない方は職員がケアを行うようにしている。義歯の洗浄も気をつけて行うようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりの排泄のパターンを理解し、自尊心や羞恥心に配慮しながら、さりげないトイレ誘導を行い、必要に応じて介助をし、トイレで排泄できるよう支援している。拒否される利用者には、無理強いせず、時間を置いて声をかけたり言葉かけを工夫したりして、排泄の自立に向けた支援に努めている。	
			(外部評価) 利用者個々の排泄パターンをもとに、トイレで排泄できるよう支援されている。入院して紙オムツ等を使用するようになった方には、退院後は入院前のレベルに戻るよう、声かけや誘導に工夫して支援されている。トイレには、「便所」の札が掛けられていた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄記録を参考に、一人ひとりの便通には気をつけている。日々の食事で繊維質の多い食材を使ったり、水分補給や運動にも気を使い、便秘対策に取り組んでいる。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 本人の希望に合わせて入浴出来るように努めている。ゆっくり入りたい、早く終わらせたいなど、一人ひとりの入浴の習慣を把握して、気持ち良く入浴が出来るように支援している。	
			(外部評価) 2日に一度、利用者の希望に合わせて、午前か午後に入浴できるよう支援されている。午前と午後で湯を入れ替え、車椅子を使用している方も、できるだけ湯船で温まってもらえるよう、又、夏場でも浴槽に浸かれるよう支援されている。ご本人の希望により、同性介助を心がけておられる。入浴に気がすすまない場合には、「今日の入浴剤は黄色ですよ」と浴室にお誘いする等、入浴に結びつくよう声かけに工夫されている。近くの温泉の足湯に出かけることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中の活動を促し、生活のリズムを整えるように努めている。また、一人ひとりの表情や様子などを考慮しながら、横になって休息が取れるようにしている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の処方箋をファイルに保管し、全職員が内容を把握できるようにしている。薬の処方の変更があった時には状態の変化等の観察をするように気をつけている。服薬時には職員が見守り・確認し、誤薬や飲み忘れが無いように職員同士でチェックしている。上手く服用できない時には病院で相談し形状を変えて貰うなどして対処している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの経験や出来る力を発揮できるように、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の気持ちを伝えるようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 本人の希望に合わせて外出をしている。買い物が好きな方は買い物に出かけたり、お花が好きな方はお花がたくさんあるコースで散歩をしたり、戸外に出かける機会を持つように努めている。 (外部評価) 近所の神社の境内に出かけたり、一周すると1時間ほどかかる池を廻る等、日常的に散歩を楽しまれている。季節ごとにご家族もお誘いしてお花や自然を見に外出し、その帰りには、外食したり、喫茶店に寄られることもある。又、おやつを食べに出かけることもある。動物園に出かけた際、利用者からは、「最初はあまり行きたくなかったが、行ってみるととても楽しく、良い思い出になった。また、皆でいるんな所へ行ってみたい」との感想があったようだ。	施設長は、ご本人の行きたい場所や馴染みのある場所に出かけられるよう、個別の外出の機会をさらに増やしていきたいと考えておられる。職員は「外出時の利用者の笑顔にもっと出会えるよう、ペットショップ等にもお連れしたい」と話されていた。今後さらに、利用者と地域資源をつなぎ、利用者の生活を拓げていくような取り組みもすすめていかれてほしい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 職員と一緒に買い物に出かけ、レジで支払いを一緒に行う機会を持ったり、利用者によって自己管理が出来る金額をご自身で所持し、自由に買い物出来るように支援したりしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話や手紙で、外部との交流が出来るように声かけをしている。電話は個人の部屋で取り次ぐなどして、周りに気を遣わなくて済むように配慮している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節によって装飾品を変えたり、家具の配置に気をつけたりして、居心地のよい空間作りに努めている。	
			(外部評価) 事業所周辺は、田園風景が残っており、大きな池を渡る風が吹き抜けている。ゴーヤのグリーンカーテンやよしずで、夏の日差しを遮る工夫がされていた。玄関には、ホオズキや職員手作りの小物が飾られており、「面会者様へ、お忙しい中面会に来ていただきありがとうございます」と書かれたイラスト入りのボードに、さりげない心遣いがうかがえる。壁には、四季折々の利用者の写真や何気ない日頃の食事風景等の写真が飾られており、会話のきっかけにもなっているようだ。又、中学生が職場体験の折に書いてくれた利用者の似顔絵や、体験後に寄せられた手紙が掲示されていた。利用者が、共用空間に出て過ごせるように、ソファや椅子を廊下等にも配置し、利用者同士で歓談できるよう配慮されている。新聞や職員が寄贈した書籍等を読む利用者もいるようだ。居間には神棚が設置されていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングのテーブルやイスの配置に気を付けたり、廊下にイスを置いたりして、一人で過ごしたり、仲の良い利用者同士がくつろげるスペースがある。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 馴染みの家具や寝具を持ちこんで貰ったり、思い出の写真や花を飾ったりして、それぞれの利用者が居心地良く安心して過ごせるように配慮している。	
			(外部評価) ご家族等も協力されて、のれんを掛けたり、ゆったりとしたソファを置いたり、お好きな俳優の写真を飾る等、利用者個々に応じたしつらえを工夫されている。又、ご自身で観葉植物の世話をしたり、職員と一緒に仏壇のお供え物を買に行く方がおられ、調査訪問時には、季節の果物が供えられていた。食後、居室でテレビを楽しんでいる方もおられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 一人ひとりの身体機能に合わせた環境の整備に努めている。必要な目印を付けたり、物の配置に配慮して安全に安心して過ごせるように配慮している。	